なるほど！その5 松明を投げるとき、なんて言っているの？

松明を投げる人のことを“勢子（せこ）”というのですが、松明を投げるときには、「トントコトッテ　エイトクボウヤ」という掛け声を出しています。これは、「とうとう討ち取った　衛徳坊や」という意味なんですよ。観客の皆さんも一緒に掛け声を出して、祭りを盛り上げてもらえると嬉しいですね。

トントコトッテ
エイトクボウヤ～！

なるほど！その6 神木にはどんな木が使われているの？

火まつりに欠くことのできない全長約30メートルの神木。かつては松を切り出す場所や切り始める人が決められており、1週間前から禊ぎを行ってから作業に掛かっていたといいます。現在では、1本物の真っ直ぐな松が少ないことから、15メートルほどの杉を2本継ぎ合わせて利用しているんですよ。

神木の先には
竹、扇が飾られています

ツト

大蛇の口を表しています。口径は40cmほどで、茅（かや）で編まれています。使用する茅は1年前から干して乾燥させておきます。中には花火が仕掛けられており、松明が入ると大蛇の血潮のように花火がはじけます。

神木を立てる場所には基礎が設けられており、一方向にしか倒れないよう、安全面の対策がとられています。

なるほど！その7 松明は誰が作るの？

松明は勢子さんたちが自分で作ります。準備するのは1人あたり5～6個。入れ損なった松明は自分で拾って投げ直します。

クロマツは数が少ないので見つけるのが大変。猟師さんや営林所に情報を提供してもらって切り出しに行きます。鹿児島県の内之浦まで行ったこともありました。

なるほど！その8 松明がツトに入るまでの最短＆最高記録は？

これまでの最短記録は開始直後の1投目、最長では1時間以上に及んだこともありました。最近では大体30～40分程度で入っていますね。

第51回 都井岬火まつり

大蛇退治の伝説を再現した幻想的かつ勇壮な炎の祭典。午後7時半からは地元小学生らが臼太鼓踊りを披露。ハイライトは8時からの柱松。夜空に描かれる炎のアーチが幻想的な空間を生み出します。

平成29年
8月25日（金）・26日（土）
旧都井岬観光ホテル前広場

●午後6時～　イベント開始
●午後8時～　柱松

なるほど！その9 松明をうまく投げるコツは？

力任せに松明をまわして投げても、なかなか入るものではありません。振り子のようにテコの原理を使うのがポイントなんですよ。

上手な勢子は、ツトの真下から柱松に沿って松明をスーッと投げ入れるんです。その様子はとても美しいものです。

離すタイミングを間違えると、
とんでもない方向に
飛んで行ってしまいます。

なるほど！その10 ツトに入れるといいことがあるの？

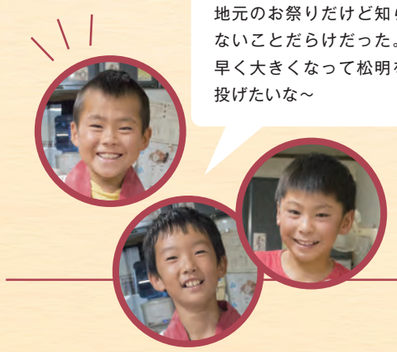
見事、松明をツトに投げ入れた勢子さんには福が訪れるといわれています。祭りの後に嫁さんをもらった勢子もいましたよ。

鎮魂の気持ちを持って粛々と続けていければ

昔は都井村の各地区それぞれで役割を分担して火祭りを行っていたのですが、いつの頃からか宮原地区のお祭りとして行われるようになりました。現在では宮原地区だけでは若者が足りないので、近隣の東、迫地区から若手に加勢してもらって、30名ほどで保存会を結成し活動を行っています。

60代、70代になると松明を投げ上げるのが大変なので、若い人の力が欠かせないんですよ。この先、どうやって若手を確保するのかが、祭り存続に向けての課題ですね。

火祭りはもともと大蛇を供養するために始まったのではないでしょうか。鎮魂の気持ちがあるからこそ、ずっと受け継がれてきているのだと思います。後継者の課題はありますが、今のまま粛々と続けていけば、またどこかで花開くのではないかと思います。今年の開催は8月25日と26日。市民の皆さんもぜひ足を運んで祭りを盛り上げてください。



地元のお祭りだけど知らないことだらけだった。早く大きくなって松明を投げたいな～

大迫力の火祭り。
ぜひ一度
ご覧ください！